

「彦根市茶の湯条例」の制定を求める請願書

紹介議員

馬場和子 赤井康孝

山川隆史 上杉正敏

《請願趣旨》

彦根は、地名の由来が古事記にまでさかのぼる長い歴史や、広い分野の豊かな文化で満ちています。特に井伊家の藩政時代は 35 万石を有し、城下町として政治・経済・文化の中心地でありました。名高い朝鮮通信使の宿泊所でもあり、茶の湯によるおもてなしは大変喜ばれたと言われています。14 代も続いた藩主井伊家は、5 人が 6 回も大老職を授かり幕政にも大きく参画しましたが、藩主たちは茶の湯にも親しまれ、城内楽々園・玄宮園等では盛んに茶会を催されています。

特に幕末における直弼公は、大老として政道に命をかけられましたが、その一方茶道には若い時から終生精魂を注がれ、当時の遊芸化した茶の湯が本来の茶の湯の精神を見失っていることに警鐘を鳴らし、利休に帰れと唱えられ、理論と実践を追求し、遂に茶の湯の精神や心髄を究められた直弼公の茶は、近代を越えて現代にも通じるものと言われております。

また、直弼公が作った言葉とされる「一期一会」は今も多くの人が大事にしている言葉であり、観光のまち彦根にとっても大切な言葉であります。

しかし、幕末から維新にかけての歴史は直弼公を否定しつつきたので、直弼公の茶の湯はすっかり影をひそめてしまい、現在も無関係とは言えず、多分に影響を受けています。

地元がこのまま放置して良いものでしょうか。今こそ、直弼公の不運を断ち切り、直弼公の心を継ぎ、市民が茶の湯に親しみ、茶の湯を楽しみ、直弼公の茶の湯の精神を生かした茶の湯文化を彦根から発信していきたいものです。直弼公の茶の湯の精神は、茶道の各流派を越えて、人間の生き方、人と人のありかたにまで通じるところがあると言われてしています。今こそ、地元の茶の湯関係者や各種機関・団体等が一丸となって、茶の湯や茶の湯文化を広め、彦根の教育・文化・観光・産業等をも活性化させ、新しいまちづくりを目指していきたいものです。

茶の湯は日本を体表する文化です。日本画、書道、能、歌舞伎、和歌、俳句、工芸、彫刻、料理、建築、造園、お花、服装等々に及ぶものであり、茶の湯は東洋の哲学・宗教・芸術が一つになった日本固有の文化です。今こそ、世界遺産の申請でも「世界の中の彦根」とともに「一期一会の精神」も彦根からアピールしていきたいものです。市民と行政が一つになって力を合わせてこそ実現できることですから、是非とも条例制定にお力添えをいただきますようよろしくお願い申し上げます。

《請願事項》

①彦根市に「茶の湯条例」を制定されたいこと。



請願者

彦根市中央町 3-73
(代表)彦根一会流
彦根市小泉町 798
(代表代行)彦根一会流

神野豊子



川崙順次郎



彦根市中藪町 700-2
○井伊大老御流

西郷博代



彦根市岡町 159-20
○表千家

布藤卜三



彦根市京町 3-6-6
○裏千家

西村宗晃



彦根市西野波町 120-3
○表千家

外海和子



彦根市大藪町 475-27
○裏千家

藤森宗敏



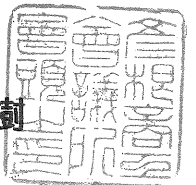
彦根市日夏町 1489-3
○表千家

疋田幸江



彦根市中央町 3-8
○彦根商工会議所会頭

小出英樹



彦根市本町一丁目 12-5
○公益社団法人彦根観光協会会長 一圓泰成



彦根市中央町 3-8^割
○彦根商店街連盟 会長

文澤大輔



東京都文京区千石 2-16-4
○特別史跡「埋木舎」当主

大久保治男 

甲賀市信楽桃谷 300
○元彦根城博物館茶湯研究班長
現ミホミュージアム館長

熊倉功夫 

彦根市城町 1 丁目 6-9
○元彦根城博物館茶湯研究員
現京都女子大学教授

母利美和 

彦根市尾末町 1-17
○元彦根城博物館茶湯研究員

井伊裕子 

彦根市錦町 8-7
○元彦根城博物館茶湯研究員

岡野あき 

米原市須川町 319
○元彦根城博物館茶湯ゲスト研究員
現 柏原宿歴史館館長

谷口 徹 

<順不同>

令和 3 年 2 月 27 日

市議会議員議長安澤勝様